

“だいち”画像による被災状況把握の例
(2011/3/17の河北新報記事)



奪われた名勝松原

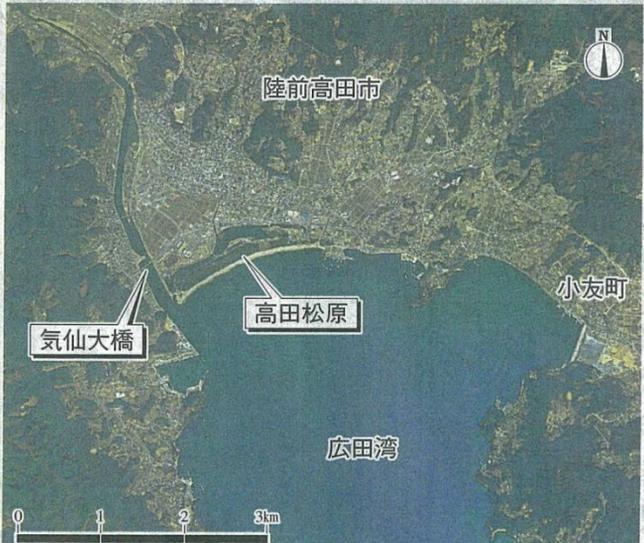
衛星だいち 陸前高田撮影

宇宙航空研究開発機構の陸域観測技術衛星「だいち」が、東日本大震災の前後を撮影した東北地方太平洋側の衛星写真を16日、河北新報社が入手した。地震と津波がもたらした激しい被害の実態を写し出している。

撮影したのは、いわき市から大船渡市付近までの沿岸部。宇宙機構の提供で、岩手大地域連携推進センターが画像解析を行った。

壊滅的な被害があった陸前高田市の画像は、地震後の2011年3月14日＝写真上＝と地震前の09年3月18日＝写真下＝の撮影。地震後の写真で、松林の名勝「高田松原」が消失しているのが分かる。海水の濁りは津波が削り取った土砂。小友町の埋め立て地は崩壊し、大量の堆積物が海にせり出している。気仙大橋など数本の橋は、橋桁を残して姿を消した。

岩手大の横山隆三特任教授（画像処理工学）は「津波は市街地を覆い、甚大な被害を及ぼしているのが分かる。災害メカニズム解明へ分析を進めたい」としている。



この衛星画像は、2011年3月14日（地震前）と3月17日（地震後）の比較画像を示している。同本報は、福島第1原発の事故発生後、津波の被害状況を把握するために、衛星画像の活用を進めている。写真は、衛星画像の解析結果を示している。写真は、衛星画像の解析結果を示している。

職員のたす期高し災
員を援。援する期高し災

立

死者数

津 8 福 5 は 者 動
津 1 島 数 人 は 者 驚 動
津 1 島 数 人 は 者 驚 動